

# 広島女学院中学校

入試科目	算数	国語	理科	社会	総合	
試験時間	50分	50分	あわせて45分		—	
配点	120点	120点	50点	50点	340点	
受験者平均	72.3点	79.2点	30.7点	27.1点	209.3点	
合格の目安	得点	69点	72点	29点	25点	195点※
	(%)	57.5%	60.0%	58.0%	50.0%	57.4%
昨年度との比較	やや易化	やや易化	やや難化	横ばい	やや易化	

※当社予想

## 算 数

- |   |   |
|---|---|
| 1 | 計算問題 (1)計算の工夫 (2)整数の計算 (3)分数・小数の計算 (4)逆算 (小数・分数)                              |
| 2 | 一行問題 (1)つるかめ算 (2)日暦算 (3)仕事算と規則性 (4)虫食い算 (5)売買損益                               |
| 3 | 図形問題 (1)平面図形 (角度) (2)平面図形 (角度) 小問数: 2<br>(3)平面図形 (面積) (4)立体図形 (表面積・体積) 小問数: 2 |
| 4 | 点の移動とグラフ・面積 小問数: 7  |
| 5 | 数の性質 小問数: 4   |

難易度は、昨年より少し低くなっています。その一方、構成・問題数には、やや変化がありました。1で過去2年間続いてきたテーマをもたせた誘導付きの計算問題が姿を消し、小問数が6題から4題へと減少しました。しかし、全体としては答える項目が増えた印象で、解答用紙の枠の数を単純に比較しただけでも、去年の32から今年は36と、かなり増加しています。つまり、1の小問数の減少よりも、他の大問の小問数

の増加が大きかったことを示しています。ただ、大問ごとに出題される分野に変化はなかったため、受験生が戸惑うことはなかったと思われます。準備をしてきた生徒にとっては、十分対応可能な問題でしょう。

1は計算問題です。誘導付きの工夫する計算問題がなくなったこと以外は、例年通りの出題です。どれも正解する必要がある問題です。ただ、引き算の組み合わせを工夫する(1)では、どの組み合わせが一番適切か

を見抜ける方がいいでしょう。ただ、標準的な計算力があれば、合否には影響ないと思われます。

②は一行問題です。(1)は典型的なつるかめ算だとわかれば、正解できたでしょう。(2)は日暦算です。足し算の結果が大きくなるし、最初の月の日数の数え方にも注意が必要で、ミスしやすい問題です。慎重に解きましょう。(3)は仕事算です。典型的な仕事算の問題ですが、間の休憩の数は植木算の考え方を使いましょう。(4)は虫食い算です。同じ数をかけて4になる数字として「 $2 \times 2$ 」ではなく、「 $8 \times 8$ 」が思いつけば解けたでしょう。左のかけ算で $A \cdot B \cdot C$ が確定できるので、それをヒントに右の引き算を解きましょう。(5)は売買損益に関する問題です。仕入れ値の合計と定価での売上の合計が出せるので、何円なら残りの個数で仕入れ値の合計と一致するのかがわかります。「赤字にならない=仕入れ値と一致する値段を求めればいい」という読み替えも、ハードルだと思います。

どれも典型問題ではあるが、目新しい切り口での出題も見られます。それをどこまで自分の知っている解き方に近づけられるかがポイントです。

③は図形の小問集合です。(1)は円の半径を利用して、二等辺三角形を作る問題です。半径を利用した角度の問題の定番なので、正解しておきたい問題です。角イは、角アと角yが等しいことから、平行をみつけ、錯角で求められます。(2)は多角形の角度の問題です。①では五角形として考えても、左右対称ということから、半分にして四角形として考えてもいいでしょう。②では駒を並べて一周させるということから、外角に注目できるかどうかポイントです。(3)は三角形の面積から扇形の面積を引けばよいのですが、それぞれの中心角がわかりません。しかし、「中心角の合計は求められる」というところに気づけば解くことができます。(4)は基礎の問題ですが、②の表面積は、長方形に分割して、過不足なく求めるのに、注意が必要です。

④は点の移動とグラフ・面積に関する問題です。全体を通して面積を

求める三角形の高さは4 cmで固定されているので、底辺だけに注目すればよいことになります。(1)は点Pがどこにいつたどり着くと「面積が0になるのか」「面積が増加から減少に転じるのか」に注目し、ポイントとなる点を結ぶとグラフが書けます。(2)の①ではそれぞれの場合の点Pの位置を確定し、条件に照らして求めましょう。②では点PがAB上にあるとき、2つの三角形の面積のグラフを重ね合わせて書くと解きやすいでしょう。また点PがBC上にあるときの面積の変化は、底辺に注目すると面白い結果になります。③では、②のグラフの続きを考えて見当をつける必要があります。その後はグラフに直角三角形を重ね合わせて相似を用いて、秒数を求めます。(2)は注意点も作業量も多い厳しい問題です。グラフをからめての出題あるいはグラフそのものを書かせる問題は女学院中では頻出ですので、過去問などでしっかりと対策する必要があります。

⑤は数の性質に関する問題です。(1)では問題文に与えられている【4】を用いると【5】が、また【5】を用いると【6】が容易に出せます。(2)~(4)の「0」を数える問題では、「 $\times 10$ 」を数えるために、「 $\times 5$ 」がいくつあるかを数えるのが大切です。また(3)(4)では、5の倍数を数えたあと、25の倍数、さらに125の倍数を数える必要があります。(2)~(4)は受験算数の教材では多く扱われている問題ですが、広島の入試においては大問という形式ではあまり出題されてきませんでした。過去問だけにとどまらず、幅広い勉強が大切です。

典型問題であっても、問題設定に目新しい工夫がなされていたり、情報の整理が必要だったり、1つずつの問題にじっくり取り組む姿勢と思考力が求められます。広島女学院中学校が受験生に求める算数力の伝わってきます。しっかりした力がないと確信を持って正解が書けない問題が多かったと思います。日々の勉強においても「なぜそうなるのか」「どうしてこう求めるのか」といったことを考える習慣をつけておきましょう。いざというときの得点力を高めることに繋がります。

## 国語

- |   |                 |                     |         |
|---|-----------------|---------------------|---------|
| 一 | 内田樹 『日本の覚醒のために』 | (説明文 約4800字 小問数14問) | うち記述 1問 |
| 二 | 新美南吉『おじいさんのランプ』 | (物語文 約5300字・小問数11問) | うち記述 2問 |
| 三 | 漢字の書き取り         | (小問数 8問)            |         |
| 四 | 漢字の読み取り         | (小問数 4問)            |         |

今年も昨年同様に、大問4題の構成となりました。大きな変化としては2点挙げられます。一昨年まで出題されていた、ことわざ、慣用句などの語句の大問は昨年に引き続き出題されませんでした。昨年に比べ、文章量が大きく増加しました。説明文と物語文を合計して、一昨年は約7500字、昨年は約7300字でしたが、今年度は約10100字と約2800字もの増加がありました。限られた時間内で長い文章を丁寧に、かつ正確に読み取る力をつける必要があると言えるでしょう。

それでは、大問ごとに見ていきましょう。大問三の漢字の書き取り問題では、「歴訪」「存亡」「築(百年)」など小学生にあまりなじみのない漢字は難しかったかもしれません。また、「語らう」は簡単な漢字ですが、送りがなでとまどった受験生もいるでしょう。

大問四の漢字の読み取り問題では、「雑穀」「遺失(物)」「眼帯」などを見ると、単に漢字の読みというだけでなく、語い力も求めていると言えるでしょう。

大問一は説明文の読解です。入試頻出の内田樹の講演集からの出題で、内容は、多岐に渡り日本をとりまく課題について述べたものです。問題文では、筆者がフランスの大学で教えていた時の出来事を例に挙げ、コミュニケーション力についての意見を展開しています。設問(傍線部や空欄)の配置、問うている内容がすばらしく、この文章の読みを深めるにあたって確認すべき事項が的確に問いとして設定されています。読みながら設問を最初から解いていくと、まるで解説授業を聞いているかのように読み進めることができるように作成されています。

出題内容は、問一、問四(2)、問五、問六、問十一が内容理解、問二、問四(1)が語句の意味、問三、問十が理由、問十二が筆者の主張を問う記号選択問題でした。問七が内容理解、問八が言い換え、問九内容理解に関する問題でした。問九(2)で十字程度の記述問題が出題されていますが、前段落から「臨機応変」という語を見つけられれば容易に書ける問題だと思われます。良質の問題がずらりとならび、全体的にバランスよくまとまっています。

大問二の出典は、昭和初期の児童文学作家である新美南吉の童話です。南吉が生前に書いた唯一の童話集です。ランプを通じて、東一君(主人公)とおじいさんの温かい心の交流が描かれます。問題文として扱われているのは、おじいさんが東一君に話した昔話の場面です。文明開化が進み、ランプ売りの商売を辞めなくてはならなくなった時の、おじいさんの心情と行動が中心に描かれています。おじいさんの複雑な心理を読み取ることが、この作品を理解するポイントです。設問では、問一、問二、問三、問七、問八、問九が主人公の心情を問う問題で、問六と問十が心情の理由を問う問題でした。問四が語句、問五が内容に関する問題です。記号選択問題と書き抜き問題、穴埋め問題で構成されています。やはりこちらも説明文同様に、良質の問題でバランスよくまとまっています。少し古い作品ということもあり、なじみのない言葉や時代背景の違いなどから、本文の内容をやや難しく感じた受験生もいるかもしれません。実はこの作品は、鯉城学院の小学六年生で使用している国語教材に収録されている作品でした。しっかりと取り組んでいた生徒の皆さ

んは、見覚えがあったと思うのですが……？ 良い文章というものは、新旧にかかわらず使われるということだと思います。

全体的には、記号選択問題と書き抜き問題が中心で、漢字を大問でしっかり出題するスタイルに大きな変更はありませんでした。広島女学院の国語対策は、読む力を付けることが第一です。英進館鯉城学院作成「中学入試国語出典読書案内」を参考にして、少し古い作品なども読んでみま

しょう。今年は語句の大問こそありませんでしたが、小問として出題される問題の中には、語句の意味がわからないと解けない問題も多いので、送りがな(訓読みの書き取りは送りがなまで問われます)、四字熟語、ことわざ慣用句など、高い完成度で仕上げましょう。漢字や語句の力を土台にしなければ、読む力は絶対に身につけません。

## 理 科

- 1 地学分野から、月の満ち欠け に関する問題 (小問7)
- 2 地学分野から、科学時事問題 に関する問題 (小問2)
- 3 生物分野から、生物総合 に関する問題 (小問8)
- 4 化学分野から、アンモニア に関する問題 (小問3)
- 5 化学分野から、温度による気体の体積変化 に関する問題 (小問6)
- 6 物理分野から てこと輪軸 に関する問題 (小問6)

今年は、物理・化学・生物・地学から合計6題の構成となっています。そして、内容は基本から標準レベルで、受験生の単元の定着度を計れる良い問題となっています。注意点として、社会と同じ冊子になっているので、予め、どちらの教科から始めるかを決めておいて、さらに、その時間配分もしっかり考えておく必要があります。

1 月の満ち欠けについて、「菜の花や 月は東に 日は西に」という蕪村の俳句から、季節と時刻そして、月の種類を特定させる問題です。過去に他の中学校から出題されたことがあります。国語の俳句読解の知識ではなく、理科の知識として解答してくれたと信じています。他の問題は、月の公転周期、満ち欠けの順番、月食の時の月の形をたずねる基本問題ですからしっかり得点出来たと思います。

2 科学トピックからの2題です。大問の中で時事問題を取り上げるのはめずらしいですが、科学ネタはやはり要チェックといえます。(1)

の「はやぶさ2号」は前回ほどのインパクトはなかったかもしれませんが「〇〇ちゃんに叱られる」でも取り上げられていました。しかし、残念ながらオンエアは入試の後だったと記憶しています。(2)の火星は理科の知識で答えて欲しい問題です。

3 (1)は出題される機会が多い植物ですが、分類基準を理解するにはそれぞれの植物についての幅広い知識が要求される簡単な問題ではありません。しっかりした準備ができていたかどうかは問われました。また、「ベン図」の仕組みに戸惑った受験生もいたかもしれませんが、ここは算数の領域になります。(4)は近年、出題が多くなっている「標本調査」からの問題で、初めて取り組むということは、絶対になかったはずです。演習を通して理解が出来る受験生にとっては自信を持って対応できたと思います。

4 アンモニアの性質として、水によくとける、空気より軽い、水にと

けるとアルカリ性を示すという知識があればOKでしょう。

⑤ 温度変化による空気の体積変化を与えられた実験結果から考えていく、計算やグラフ作成を含んだ思考問題です。ここでの時間のかけすぎには注意しないとはいけません。

⑥ 身のまわりにある「てこと輪軸」を利用した道具からその仕組みや目的について問う問題で、面倒な計算はありませんが、しっかりとした

「てこと輪軸」についての理解が必要な問題です。

対策としては、基本、標準問題をしっかり演習すること、基本問題が多いので、ミスの少ない答案作りが重要です。また、今年は「てこと輪軸」でしたが、生物を中心とした身の回りの現象と関連付ける問題は頻出ですから注意しておきましょう。

## 社会

1 《地理》日本の産業や自然に関する問題(6問)

2 《歴史》歴史に関する問題(10問)

3 《公民》政治に関する問題(6問)

2019年度も広島女学院中は理社合わせて45分で、配点は各50点満点。単純に2で割ると1科目22~23分という短い時間で解くことになります。今年の問題数は22問(去年は23問)でしたので、ペースとしては1分に1問解いていくイメージですが、例年時間が足らなかったという話は聞かないため、比較的解きやすい問題構成になっているといえます。受験者平均点は27.1点で、27.3点であった昨年と難易度は横ばい。合格者平均も30.0点ですので、受験者平均との差は1、2問の差でしかなく、基本的な問題で構成されていたと言えるでしょう。今年も広島県の資料を使った出題が目立ちましたが、答える内容は一般的な社会の知識を使ったものでした。出題形式は、記号選択式15問、語句記述4問、文章記述3問で、昨年と比べると、記号問題の割合が少し大きくなる形となりました。

①は日本の産業や自然に関する問題でした。資料は広島県のものを使用しているものの、(1)問1の「江の川」を答える問題を除くと、基本的な知識を使って解答できる問題でした。(1)問4の三角州の高低差について問う問題は、記号問題ではあるものの、単純な知識で答えるのではなく知識を使って考えさせる問題で、最近の思考力・表現力を求める中学入試の傾向を表している一問と言えるでしょう。その他に「従業者数と製造品出荷額の割合について」の問題がありましたが、割合の

増減だけみて従業者数の増減を判断してしまうと間違いやすいものでした。ただ、こういった問題はひっかけ問題として様々なところで出題されているものですので、一度ひっかかったことがある生徒は間違えることなく解答できたと思います。資料問題も、思考型の問題ではなくパターン型の問題もあるので、様々な問題にあたっておく必要があります。

②は歴史に関する問題で、例年通り地理や公民よりも多めの出題がされていました。資料は、地理と同じく広島県に関するものが使われていますが、広島県に特化した問題は(3)問3だけでした。この問題は、2つの資料を参考にして広島が原爆の投下先に選ばれた理由を、地形的な特徴から説明させるものでした。前述したように思考力を問う出題は中学入試全般でも増えてきており、資料を正確に読み取り、その内容を記述する練習もしておく必要があるでしょう。その他の問題は文章記述の問題もありましたが、知識から答えることが可能な問題であり、解きやすい問題だったと思います。

③は公民に関する出題でした。ここでも資料は広島県のものが使われていましたが、広島県について問うものではなく、一般的な社会の知識を問う問題でした。(1)では「ワーク・ライフ・バランス」という語

句を問う問題が、(3)の問1ではSDGsの意味である「持続可能な(開発目標)」が出題されており、テキストからではなく、ニュースなどから知識を取り入れることが求められています。(2)は知識ではなく資料の読み取り問題であり、ある意味国語のように読解力を試される問題とも言えるでしょう。単純な知識を問う問題から、思考力や分析力を問う問題が多くなっている近年の流れに即した問題といえます。

広島女学院中学の社会科入試は、歴史の問題が地理、公民とくらべ

て多いという特徴があります。その中でも、単純な知識を問う問題だけではなく、資料の読み取り問題が出題されるようになってきています。歴史は社会の中でも暗記色が強い分野ですが、自分の言葉で覚えた知識を説明できるようにする練習が、資料読み取り問題でも生きてくるでしょう。合格得点の目安は6割です。基本的な知識を繰り返して覚えると同時に、その知識を他の人に伝えるように説明できるかどうか意識しながら勉強していくことが大事です。